

実装プロジェクト「国際基準の安全な学校・地域作りに向けた協働活動支援」 平成26年度の実装コンテンツ

1. 協働促進WebサイトA: エビデンスに基づいた安全な生活環境づくり(通称エビサポ)

The screenshot shows the Evisapo website interface. Callouts point to the following features:

- English ページの作成**: Points to the top navigation bar with an 'English' link.
- 実装活動の事例紹介**: Points to the main banner area featuring a smartphone and keyboard.
- Facebook、Twitterとの連動**: Points to the social media sharing icons (Facebook, Twitter).
- 各コンテンツ入りロボット**: Points to the main menu area with various program icons.
- サイト内更新情報**: Points to the right-hand sidebar containing a list of recent updates.

2. 協働促進WebサイトB: SC推進自治体ネットワーク会議情報共有用サイト

The screenshot shows the SC推進自治体ネットワーク会議情報共有用サイト interface. Callouts point to the following features:

- Webサイトの更新マニュアル**: Points to a document titled '全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議 web サイト更新マニュアル'.
- 各自治体のニュース**: Points to the 'セーフコミュニティ関連ニュース' and 'セーフスクール関連ニュース' sections.
- エビサポとのリンク**: Points to the '安全推進プログラムはこちら' link at the bottom.

3. まちの安全点検マップづくりワークショップのパッケージ化

(1) 担い手講習のためのppt作成

まちの安全点検マップづくりのステップ



まちの安全点検マップづくりの3ステップの提示

そして、マップの活用目的をはっきりとさせましょう

しっかりと活用できてこそそのマップづくりです！
そのためには、

**活動の改善やまちづくりに
つなげるようにしましょう**

作った地図の活用方法をあらかじめ考えから作るようにしましょう。
地図を作ることで何を知らりたいですか？
何が改善できそうですか？

点検マップの見取り図

まちあるまでメモをしたり、写真を撮ったものを、地図の上かき書いていきます



安全点検マップづくりのポイント2

良いところと悪いところ、2つの視点で
(悪いところはほり出すと、安全マップづくりの欠点が強調されてしまいます)
*点検項目は、マップづくりの目的によって異なってきます



マップの出来上がりイメージの共有

長所、短所のどちらにも注目する重要性

マップづくりを
活動の改善やまちづくりにつなげる例

- まちの安全活動に興味をもってもらいたい。
→地図を使って、自治会・町会の安全活動のことをアピール
- 活動がかかっている？
→自治会・町会の活動とPTAなどの活動の調整のために
- 通学路の途中にはどんな危険があるの？対策は何がされているの？
→通学路の点検と改善のために
- みんなが集まる場所は安全？子どもが遊ぶ場所は安全？
→よく利用する施設の周囲の安全を確認するために。

活用事例2 交通安全の推進

通学路の交通量が多いので、ゆっくり走ってもらうようにする
(香川県久米市)

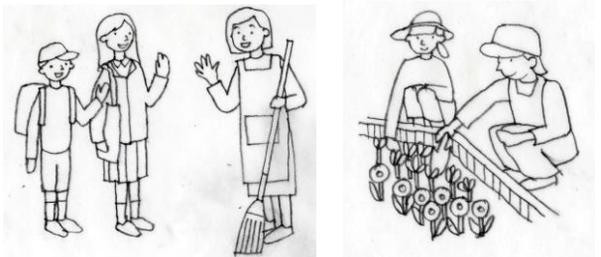


マップを活動やまちの改善に活用することの意識付けと事例の紹介

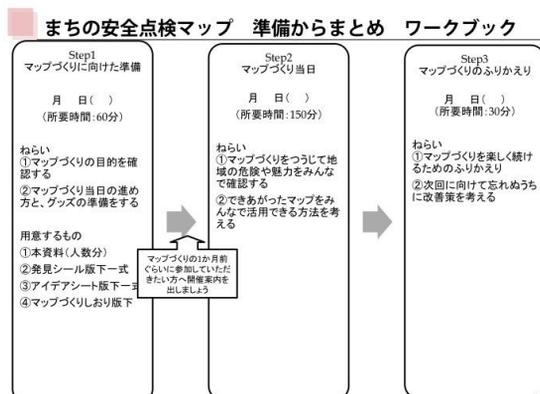
(2) まちの安全点検マップづくりを楽しくできるようにするツールづくり



チェックポイントのアイコンシール(差し替えあり)



活動の改善アイデアカード(差し替えあり)



活動名	人数	準備
マップ	人数×1枚	マップシートを貼ります
敷紙シール	人数×1シート	まち歩きマップ用
カッター	1台	デザインカッター(使い慣れたもの)
出力用プリント	1枚	写真集や写真集がなくてもいいです
活用アイデアカード	1枚	カードは印刷して、みんなで見ながら読んでいきます
サインペン	人数分	まち歩きマップ用に
交通安全マーク	1枚	貼紙はある程度
付箋紙	50枚	まち歩きマップのコメント記入用
クリアボード	人数分	あれば
のり・セロテープ	適量	カードシートへの貼付のために

活動名	人数	準備
509	10人	今日貼るシールを貼ろう
509	まち歩き	同上
309	マップをまとめよう	横断線
409	活用アイデアの検討	アイデアシート アイデアカード 敷紙シート アイデア実行可
509	おわりに	横断線 付箋紙

企画者用マニュアル(差し替えあり)

参加者用マニュアル(差し替えあり)

(3) 聞き書きマップツールの実用化

「スターターキット」を開発

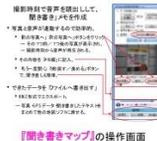


『聞き書きマップ』ver.3を添付予定 4

スターターキットと「聞き書きマップ」ver.3をリリース

手引き書・マニュアルを作成

- 安全点検まちあるき実施の手引き書
 - 安全点検まちあるきの実施手順をわかりやすくまとめた内容
 - A4判カラー、500部印刷を予定
- 安全点検マップ作成ツール使用マニュアル
- 安全点検マップづくりワークショップマニュアル



『聞き書きマップ』の操作画面 「地域の改善計画マップ」の作成 5

聞き書きマップの使い方マニュアル、ワークショップマニュアルの作成

4. 安全行動イメージトレーニングの教材化

安全行動イメージトレーニング 実践マニュアル (1to1 編)

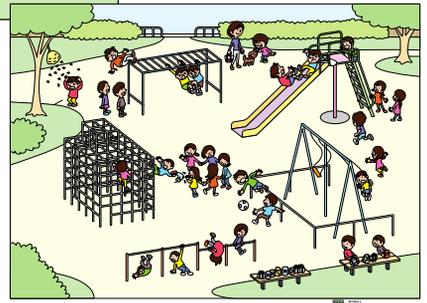
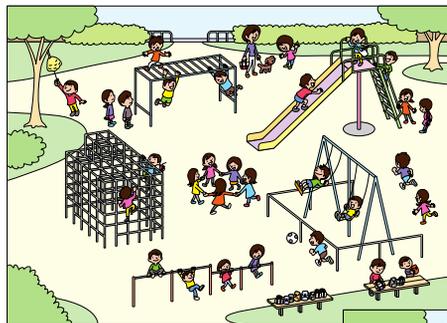
1. 子どもに1枚目(事故が起こる前)の絵を見せて問いかけます。
 例:「ルールを守って遊んでいるのはどの子かな?」「それはどうして?」
 例:「この後、ケガをしてしまいたいそうなのはどの子かな?」「それはどうして?」

Point! 子どものいうことを全て受け止めて、よく聞く
 子どもが投げかけてくるメッセージは、間違えている(想定される答えと違う)と思ってもすべて「うん、うん」と受け止めて聞いてください(そして、子どもの言葉をメモしてください)。子ども自身が様々な可能性に気づけることが重要です。そして、子どもの言葉を繰り返して確認してあげてください。単純に内容を繰り返したり、語尾を繰り返したりするだけで大丈夫です。決して子どもの話を途中でさえぎって、評価したりアドバイスしたりしないでください。なにも答えられなくても大丈夫です。その時は、「○○くん(ちゃん)はどうやって遊んでいるの?と問いかけてあげてください。」

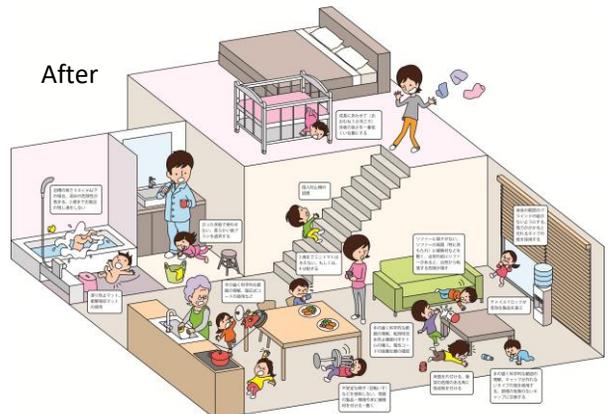
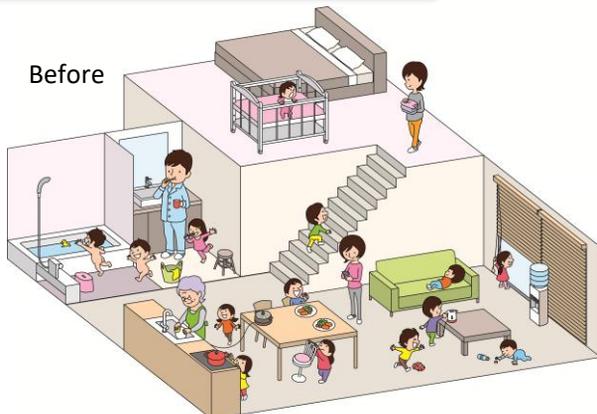
2. 次に2枚目(事故が起こった後)の絵を見せて問いかけます。
 (1) 子どもが気づいたところを指摘します。
 例:「○○くん(ちゃん)が気づいたところはここだね。」
 (2) 子どもの想定と絵の結果が違っているも構いません。いろいろな可能性があることを伝えます。
 例:「○○くん(ちゃん)はこうだと思ったけれど、この絵ではこうなっていたね。こういうことも起こるんだね。」
 (3) 子どもが気づかなかったことについて話し合います。
 例:「この子はケガをしそうになっているね。どうしたら、ケガにつながらなかったのかな?」
 例:「この子は安全に遊べそうだね。どうして安全に遊べると思う?」

Point! 想定した結果と違っていても大丈夫。いろいろな考え方を共有する
 想定した結果と違っていても「そういう考え方もあるんだね」と肯定してあげ、決して間違っていないことを伝えてください。そして、子どもが自分の意見と違うことを言ったら「私はこう思うよ」とご自分の意見を言ってください。いろいろな意見があることを子どもが知ることの方が大事です。

科学技術振興機構 産学連携科学館 原田 豊(著)



←教材の実践マニュアル作成



幼児室内事故編の教材(保護者用)作成

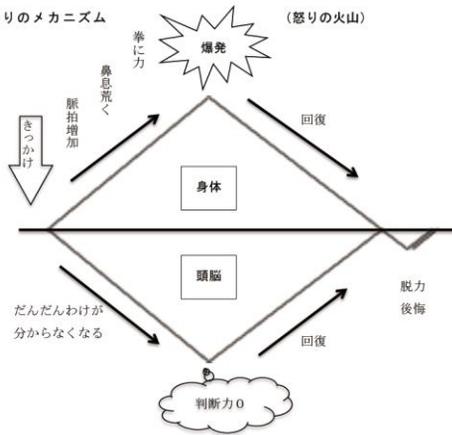


1シーンに絞ったものも作成(紙芝居風に活用)

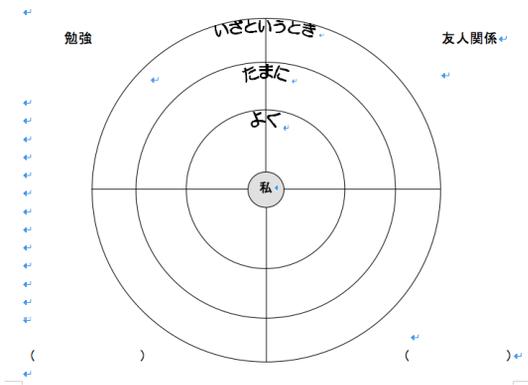
5. Sel-short: 中学生の心の健康、いじめ自殺予防教材化

いらいらを知ろう!

★怒りのメカニズム



●そうしたサポートをくれるのは、あなたにとって、誰ですか？



生徒向け教材の作成(差し替えあり)

6. インターネットリテラシー指導者養成システム

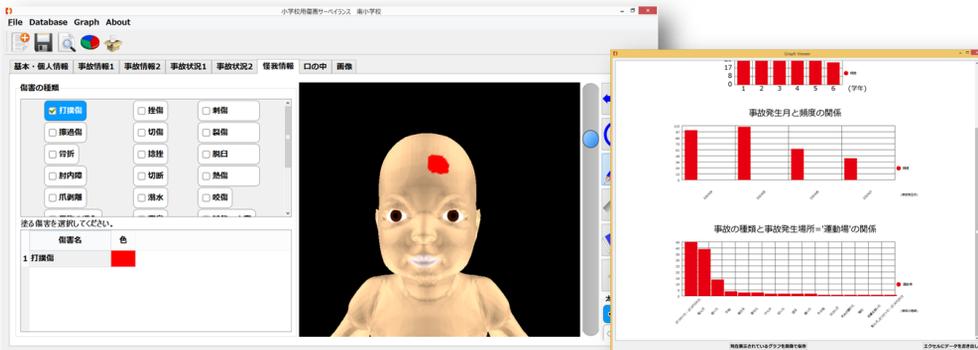


昨年度作成した冊子を教材とした指導者育成講座

講座を受けた指導者(ネットアドバイザー)が中学生を指導

7. 外傷記録評価システムおよびISS版安全学習プログラム

(1) 外傷サーベイランスシステム



可視化機能と操作性を改善した外傷サーベイランスシステム(金竜小学校、富士見台小学校へ導入)

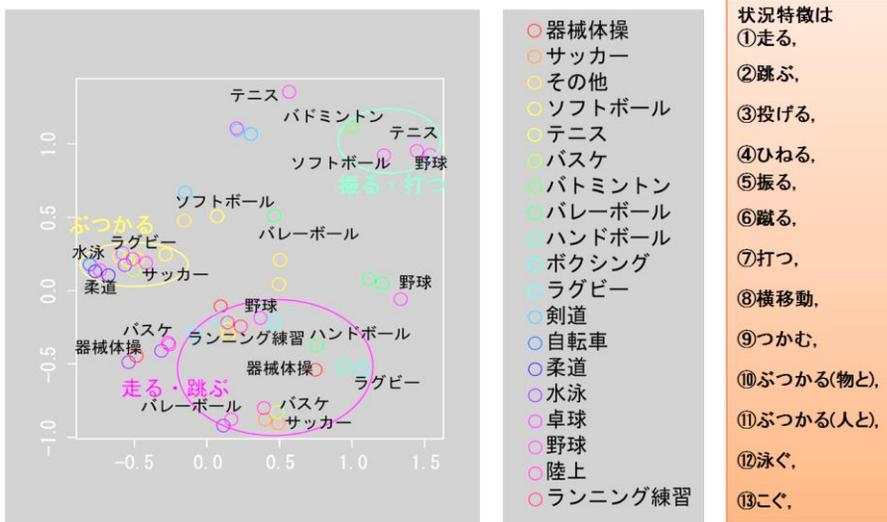
(2)安全学習プログラム(小学校編)



3Eの考え方を導入した安全学習教材の作成(予防の概念をわかりやすく伝える)と富士見台小5年生による試行

※3E: 子どもの重大事故を科学的アプローチから予防するにあたり、3E(Education:教育、Enforcement:法律・安全基準、Environment:環境)の改善が重要であることが知られている。

(3)安全学習プログラム(中学校編)



多次元尺度構成法による事故状況の類似度分析結果



拡充したスポーツ外傷のコンテンツ一例